

第2次胎内市総合計画の考え方

1. 総合計画の全体像

序論

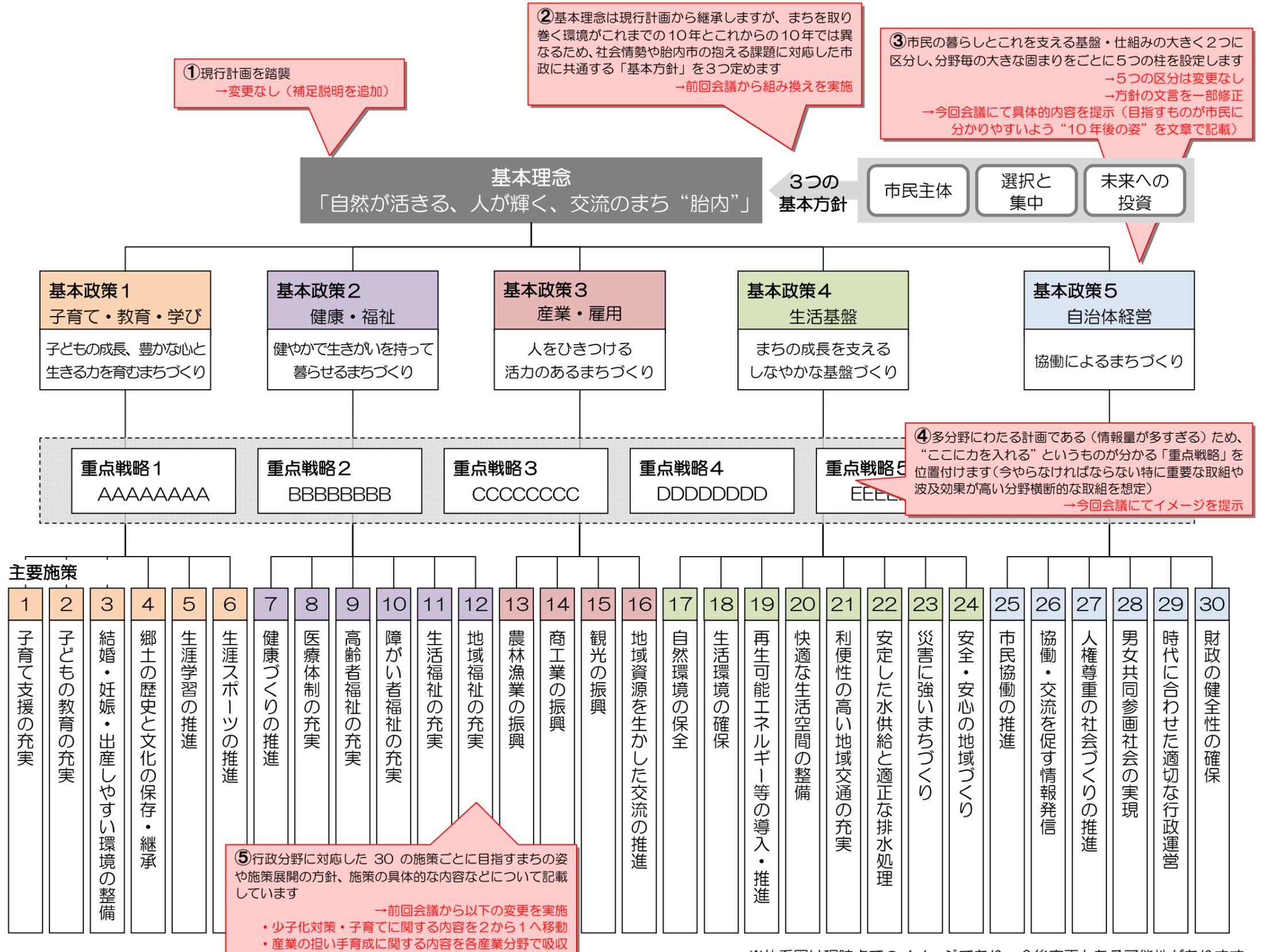
1. 計画策定の趣旨
2. 位置付け役割・体系・期間
3. 第2次総合計画策定の背景

基本構想

1. 胎内市が目指すまちづくり
 - 1-1 基本理念
 - 1-2 人口の展望
 - 1-3 土地利用構想
2. 5つの基本政策
 - 2-1 子育て・教育・学び
 - 2-5 自治体経営

基本計画

1. 計画の全体像（右図）
2. 重点戦略
 - 2-1 AAAAAAAAAA
 - 2-X XXXXXXXXXXXX
3. 主要施策
 - 1 子育て支援の充実
 - 30 財政の健全性の確保



① 現行計画を踏襲
→変更なし（補足説明を追加）

② 基本理念は現行計画から継承しますが、まちを取り巻く環境がこれまでの10年とこれからの10年では異なるため、社会情勢や胎内市の抱える課題に対応した市政に共通する「基本方針」を3つ定めます
→前回会議から組み換えを実施

③ 市民の暮らしとこれを支える基盤・仕組みの大きく2つに区分し、分野毎の大きな固まりをごとに5つの柱を設定します
→5つの区分は変更なし
→方針の文言を一部修正
→今回会議にて具体的内容を提示（目指すものが市民に分かりやすいよう“10年後の姿”を文章で記載）

④ 多分野にわたる計画である（情報量が多すぎる）ため、“ここに力を入れる”というものが分かる「重点戦略」を位置付けます（今やらなければならない特に重要な取組や波及効果が高い分野横断的な取組を想定）
→今回会議にてイメージを提示

⑤ 行政分野に対応した30の施策ごとに目指すまちの姿や施策展開の方針、施策の具体的な内容などについて記載しています
→前回会議から以下の変更を実施
・少子化対策・子育てに関する内容を2から1へ移動
・産業の担い手育成に関する内容を各産業分野で吸収

※体系図は現時点でのイメージであり、今後変更となる可能性があります

2. 主な変更点と変更の趣旨

① 基本理念

指摘事項	対応
<ul style="list-style-type: none"> “交流”には様々な意味があり、“交流”すれば良いというものではない。(第5回策定審議会) 豊かな自然というのは近隣どこでも同じである。もっとずっと田舎にして特徴を出すというやり方もあるのではないか。(第5回策定審議会) “交流”の目指すところが分かりづらい。(市民アンケート) 	⇒「自然が生きる」「人が輝く」「交流のまち」のそれぞれの言葉に込めた思いを説明する文章を追加しました

<前回提示内容>

基本理念（まちの将来像） 自然が生きる、人が輝く、交流のまち

<今回提示内容>

自然が生きる、人が輝く、交流のまち “胎内”

自然が生きる

母なる胎内川や四季の変化に富んだ山並みをはじめとする豊かな自然と、安心して暮らせる生活基盤、更に先人達が築き上げてきた歴史・文化に囲まれた心安らぐ故郷を次世代に引き継ぐという思いを示しています。

人が輝く

まちの継承や発展も基盤となるのは“人”であるとも言えることから、人づくりを1つの軸に据えて、市民がまちの主人公として輝くことができるまちを実現するという思いを示しています。

交流のまち

ご近所の支えあいや関心を共有する市民のつながり、そして足りない所は外の力も借りながら、人・もの・情報が行き交う活力のあるまちを実現するという思いを示しています。

② 3つの基本方針

指摘事項	対応
<ul style="list-style-type: none"> 3番の“～～発信する”は良い内容だなと感じた。(第6回策定審議会) 2番の“果敢に挑戦し～～”については、“何かを作る”とか“何か大きな施設を建てる”といった方向に意見が集中しやすいので配慮が必要である。(第6回策定審議会) 	⇒“守り”“攻め”“発信”という全方位的と捉えられる並びを以下の通り組み替えました <ul style="list-style-type: none"> “市民主体”を基本に、“限りある財源”を有効活用し、“未来への投資”を行うというストーリーを明確化 “自然”を守ることは「基本理念」の説明で触れたため、守りの内容は“財源”を焦点に “挑戦”や“発信”に関する内容を“未来への投資”としてまとめて記載

<前回提示内容>

- 基本方針1 (仮) 自然と文化に囲まれた心安らぐ故郷を守る
- 基本方針2 (仮) 果敢に挑戦し、力強い未来を創造する
- 基本方針3 (仮) まちの内外に“胎内”の魅力を発信する

<今回提示内容>

① 市民主体～市民が主役～

- ◇ 市民が自ら地域の今後のあり方を考えその内容を市民と行政が協働で実行していく
- ◇ 市民自らが地域の課題解決に取り組むため市民が持てる力を発揮できるように行政が応援する
- ◇ 市民と行政の新しい関係のもと、まちづくりを進める 以上、抜粋

② 選択と集中～限りある財源を適する所へ～

- ◇ あらゆるものを等しく維持してだけで次世代に大きな負担となる過大な公共施設等を持続可能性という視点から点検し再編していく
- ◇ 施設同様に施策・事業についても整理・統合していく
- ◇ 真に必要で求められることを、まさに「選択と集中」を基軸にして常に意識する 以上、抜粋

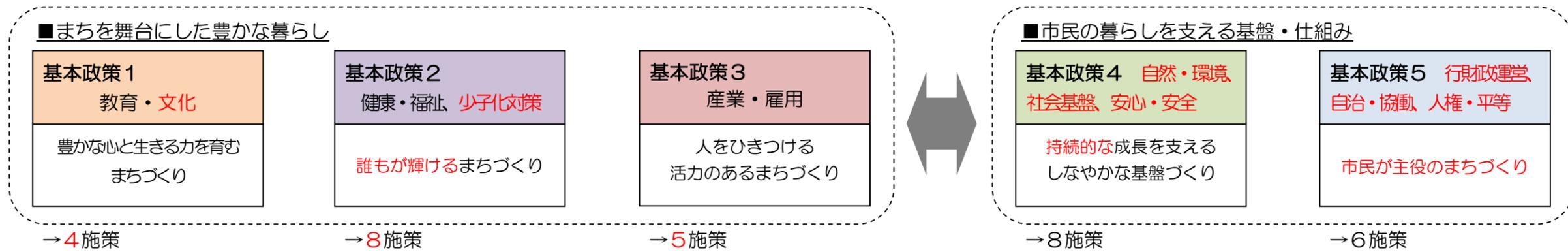
③ 未来への投資～持続可能性を求めて～

- ◇ まちの情報や魅力を発信し、地域内外の力をまちづくりに取り込む
- ◇ そのために、長期的な視野からまちの特徴や資源の中から価値あるものを見つけ、その情報を発信し、地域内外の力を取り込んでまちの魅力・地力を高めていく
- ◇ その際には、教育やインキュベーションの仕組みづくり、情報技術革新やビッグデータの活用といった若者や民間企業をひきつける新しい分野にも踏み込んだ取組とする
- ◇ このような挑戦が新たな重荷とならないよう狙いを絞って過大な投資を避ける 以上、抜粋

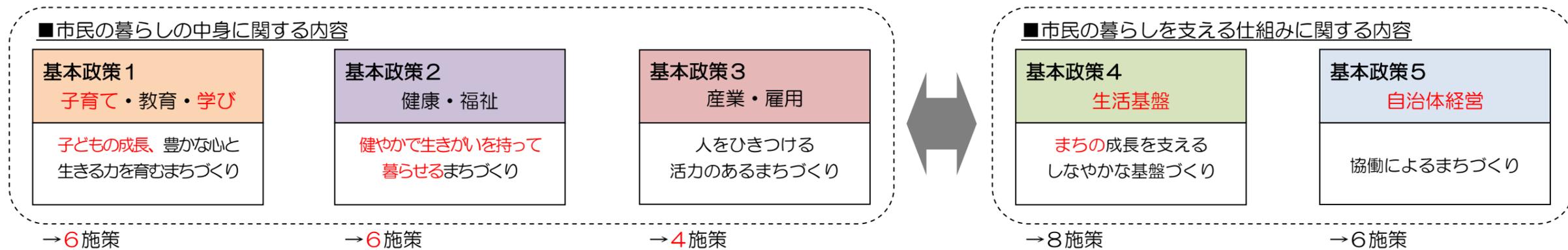
③ 基本政策、⑤ 主要施策

指摘事項	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・事細かに具体的な施策を考えていくというのはかなり大変な作業になる上、市民がパッと見た時に方向性が分からないので、もう少し項目を減らしても良いのではないか。(第6回策定審議会) ・あまり抽象的な内容よりも具体的なことが書いてある方が分かりやすい。(第6回策定審議会) 	<p>⇒細かな施策を束ねる5つの「基本政策」を設定 (前回提示済/タイトル等一部修正)</p> <p>⇒「基本政策」の内容が伝わりやすいよう施策の方向性のコピーとあわせて以下を追記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より具体的な取組内容 ・各政策が何を指すのかを平易な文章で表した「10年後のまちの姿」 <p>⇒「主要施策」は行政分野に対応させるため前回とほぼ同じ30の項目を設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただし“次世代育成”という観点から、子育てに関する内容を基本施策2→基本施策1へ移動 ・産業の担い手育成に関する内容を各産業分野で吸収 ・ほか、施策名称の変更を実施

<前回提示内容>



<今回提示内容>



※「政策の方向性」および「10年後のまちの姿」の具体的な内容については資料2を参照ください

④ 重点戦略

指摘事項	対応
<p>>構成に関する指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事細かに具体的な施策を考えていくというのはかなり大変な作業になる上、市民がパッと見た時に方向性が分からないので、もう少し項目を減らしても良いのではないか。(第6回策定審議会)【再掲】 ・ポイントを絞ってそこから話を広げていくという方が分かりやすいのではないか。(第6回策定審議会) <p>>重点的に実施すべき内容に関する具体の指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば新潟市では地域魅力創造部が横串となって施策の調整を行っているが(中略)事業を調整し、場合によっては縮小していくようなシステムを位置付けることはできないか。(第6回策定審議会) ・総合戦略では人口減少をくい止めるために子育て支援をという話をしたが(中略)そんなことが横断的にできるような方向性にまとめれば良い。(第6回策定審議会) ・胎内市に住む魅力をもっと感じられるようにしていかないといけない。そのためには、郷土愛を育む教育といった部分をもっと特色あるものにしていかないといけない。(第6回策定審議会) ・胎内市ではキャリア教育が国に表彰されるなど全国的にもすごいことをやっているのにそれを保護者が知らない(中略)“他市町村と比べてこれだけ優れたことをやっているんだ”ということを発信するのも重要だと思う。(第6回策定審議会) ・ワークショップの結果を反映して“ここに力を入れます”と言ってもらえると分かりやすい。(第6回策定審議会) 	<p>⇒今やらなければならない特に重要な取組や波及効果が高い分野横断的な取組を「重点戦略」と位置付けて、“ここに力を入れる”ということを明確化</p> <p>⇒「重点戦略」の項目については、これまでの策定審議会の議論や市民ワークショップの提案の内容と、行政各課の狙い、「3つの基本方針」に掲げた“市民主体”“選択と集中”“未来への投資”の方向性をみながら設定していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、市民が活躍する場・仕掛けをつくるという市民WSの提案と地域ぐるみの教育や福祉を推進したいという行政の思いが重なる分野の内容を“元気な地域づくり(仮)”としてイメージを提示 その他には例えば・・・ ・子育て支援、郷土学習(次世代育成) ・情報発信、市外との連携(対外戦略) ・新しいアイデアや活動を生み出す環境整備 ・農業×循環型社会＝パーマカルチャー(新たな魅力・文化の創造)

<前回提示内容>

(なし)

<今回提示内容>

